

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 20 章 9～19 節 ＞

### 1 「何の権威で」(20:2)に対する答えるたとえ話。

祭司長らがイエス様に「何の権威で行うのか」(20:2)と問うた出来事は、「私も言うまい」(8)と答えられたイエス様の言葉と、「イエスは民衆にこのたとえを話し始められた」(9)という次の出だしで終わったかに思われましたが、そうではなかったのです。なぜなら、次に語られたたとえ話は、これから起こるイエス様の十字架の出来事が父なる神様の権威から来るものであることを告げる話であり、これを祭司長らも聞いていてそのことを認めたからです(19)。

### 2 バベルの塔の話思い出す — 神にとって代わろうとする人間。

この話を聞くといつも思い出す聖書の箇所があります。それは創世記 11 章のバベルの塔の物語です。一見、何の関係もないように思われる二つの話です。しかし、今日の個所の農夫たちの「これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる」(14)という言葉を読むと、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」(4)と言って神の領域まで手に入れようとするバベルの町の人々と同じじゃないかと思うのです。しかし、人々は簡単に神様によって全地に散らされました。散らされたことは、人間の力量を超えた塔建設を続けていて起こる大崩落の悲劇を防いで下さったことを考えるべきで、罰、あるいは災いではなく、神様の恵み、幸いを考えるべきなのです。聖書は、次に人間の一致が起こるのは、バラバラになった言葉が一つになるのではなく、イエス・キリストの救いという内容によって一つになることを告げているのです(使徒言行録 2 章。ペンテコステ)。

### 3 バベルの塔の話と十字架の出来事が繋がり、見えて来ること。

旧約聖書のバベルの塔の物語で示された、神にとって代わろうとする人間の罪。それがイエス様を十字架につけて殺してしまうことによって再び、あるいは決定的に示されたのです。しかし、これで終わりではなかったのです。イエス様を十字架にかけて殺してしまった人間の罪深さを示す出来事は、その後の復活の出来事によって、その罪をも赦して下さる神様の破格の赦しの愛を示す出来事でもあったからです。神様のこの破格の恵みに私たちはどうお応えしましょう？！